

## 第2節 消化管内科研修〔選択科向け研修〕

### 第1項 検査

#### 一般目標

消化器疾患について、その診断過程の知識を身につけ、諸検査の的確な指示が出せること。

また、その診断について理解でき次の診断または治療に結び付けられる指示ができること。

#### 具体的目標

以下の検査法の基本を理解し主実施者または介助者として自身で経験すること。また得られた結果について専門医師の評価を仰ぎ、診断について討議を行うこと。

- 1 腹部超音波検査
- 2 消化管造影X線検査
- 3 消化管内視鏡検査
- 4 超音波内視鏡検査
- 5 切除材料病理検討

### 第2項 治療

#### 一般目標

消化器疾患特有の治療方法についての知識を身につけ、的確な診断に基づき治療を行うことができる。

#### 具体的目標

以下の治療法を主実施者または助手として経験すること。また治療の結果について評価できること。

- 1 出血性ショックに対する全身管理
- 2 胃管・イレウス管の挿入
- 3 胸水、腹水穿刺排液
- 4 成分栄養法
- 5 中心静脈栄養法
- 6 消化管出血の内視鏡的止血
- 7 内視鏡的粘膜切除術
- 8 内視鏡的粘膜下層剥離術
- 9 食道静脈瘤硬化療法・結紮術

10 進行癌に対する化学療法

11 特発性炎症性腸疾患の薬物療法

(疾患)

早期消化管癌      進行消化管癌      消化管出血      大腸ポリープ  
食道炎      食道・胃静脈瘤      胃・十二指腸潰瘍      炎症性腸疾患      腸閉塞

上記、第1項・第2項において

実臨床研修

- 1 入院患者を担当する。
- 2 毎朝指導医と回診し、担当患者の治療方針について検討を行う。
- 3 毎週行われるカンファレンス・回診で担当患者の治療経過について報告し、今後の方針を確認する。
- 4 急患患者の診療に当たる。
- 5 学会・研究会などで症例発表や論文作成を行う。

研修評価

日本消化器病学会の規定する研修カリキュラムを基本に評価する。

- ・ 評価者: 自己ならびに指導医
- ・ 評価時期: 当科研修終了時
- ・ 評価方法: 自己記録ならびに指導医の面談

	月	火	水	木	金	(土)	(日)
午前	内視鏡検査	入院患者 検討カンファレンス 術前精密 内視鏡検査	学術研究 証会	内視鏡読影 検討会  手術室内視 鏡治療	術前精密 内視鏡検査		
午後	内視鏡治療	術前精密 内視鏡検査	当番外来	手術室内視 鏡治療	術前精密 内視鏡検査		